

しず老施協

巻頭言



研修委員会の活動状況と今後の展望

静岡県老人福祉施設協議会

研修委員会委員長 飯塚辰也

(軽費老人ホーム和松園 園長)

静岡県老施協研修委員会委員長の飯塚と申します。老施協理事に就任した年に研修委員となり、早いもので12年目になります。

私が就任した2014年頃の介護保険制度は、これまでの施設中心の介護から、在宅・地域全体で支える仕組みへと大きく転換し、「地域包括ケアシステム」という考え方が本格的に打ち出された時期でした。

その後、2020年1月に新型コロナウイルス感染者が国内で初めて確認され、3月にはWHOがパンデミックを宣言しました。全国に緊急事態宣言が発令され、社会全体に大きな不安と混乱が広がる中、研修委員会の活動も新型コロナにより、2020年から2021年にかけて今まで出来ていた研修会が殆ど開催できないという状況でした。しかし、「リモート研修」という新たな形が普及したことで、徐々に研修会を再開することができるようになりました。

研修委員会では、年5回の委員会を基本に、主催研修として5月と3月に施設長研修会、職員向け研修会を年4回実施しています。また、高齢者福祉研究大会で優秀賞を受賞された施設による研究発表Againや県外施設視察研修など、様々な活動を企画・運営しています。毎年実施している接遇マナー研修や人材育成研修については、会員施設の皆様のご意見を踏まえつつ、委員会で協議のうえ研修内容を決定しています。

今年度の県外研修は、一日目に千葉県旭市の社会福祉法人旭福社会、二日目に千葉県匝瑳市の社会福祉法人九十九里ホームを見学させていただきました。両法人とも、理事長の前向きにチャレンジする姿勢と、職員全員が生き活きと働く姿が印象的で、厳しい時代だからこそ組織全体で前向きに取り組むことの大切さを改めて実感しました。現地を訪れることで、地域の実情やそこに根付く施設の取組みを肌で感じる貴重な機会となりました。

私が研修委員長として最も難しいと感じたことは、研修計画を立てる際、同じ研修を継続していくことと、マンネリ化を避けて旬な内容を取り入れていくことのバランスを考えることでした。

来年度は役員改選の年を迎え、研修委員会も新たな体制へと移行します。これまで培ってきた研修委員会の取組みや想いをしっかりと次期委員へ引き継ぎます。接遇マナー研修と人材育成研修は、幅広い層の職員を対象とした研修として継続し、それ以外の研修については、時代や皆様の声を反映したテーマを柔軟に取り入れ、企画したいと考えています。

委員長としての任期は一区切りとなりますが、これまで研修委員会の活動を支えてくださった委員の皆様、そしてご協力くださった会員施設の皆様に心より感謝申し上げます。今後とも、新体制となる研修委員会への変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

特集1

2025 介護の日イベント ふくしCARE FESTIVAL ～人と人をつなげる福祉の力～を開催いたしました



沼津市特別養護老人ホーム連絡協議会
会長
特別養護老人ホームあしたかホーム
施設長 深沢 康久

平日の11月10日に、ららぽーと沼津1Fひかりの広場で、介護の日イベント「ふくしCARE FESTIVAL」～人と人をつなげる福祉の力～を開催致しました。主催は沼津市内の13施設が集う沼津市特別養護老人ホーム連絡協議会です。昨年は沼津駅北口芝生広場でのイベント開催でしたが、今年は新たに大規模商業施設での会場開催となりました。



プログラムは、世界のケアワーカー（外国人介護士）による公開トーク、介護施設発「リズム合わせの音楽療法」、おいしい時間笑顔のひとつき「特養の食事紹介」、入居相談員による緊急ディスカッション「待機者が減っている?! 特別養護老人ホームの現状」です。ゲストには、福祉施設で歌の慰問等で活躍しているお二方にジャズや昭和の歌とクラシックギターの演奏を行っていただき、その他には、花の苗の無料配布、福祉用具会社や介護食・業務用食材の業者さんによる出展を行いました。このような沼津市特養連絡協議会による手作りイベントに、当日は協力スタッフや出演者等46名が参加協力し、ららぽーと沼津に来店された300名以上の方に立ち寄っていただくことができました。

おおよその収支決算を説明させていただくと、収入では県社協助成金から118,000円、自己資金として51,000円（13施設と5つの出展事業所からの負担金）となっており、支出には、会場使用料110,000円、ゲスト出演謝金16,000円、花の苗代30,000円、ボランティア行事用保険10,000円程度等となっています。

このイベントで開催趣旨として掲げているのは、「介護の魅力や課題を幅広い世代へ伝えられる介護

の日のイベントを実施することにより、地域における介護力の向上と介護人材の不足等に対する対策、共生社会の実現に向けた人と人とのつながりの大切さを配信することができるイベント」を目指しています。たまたま、ららぽーと沼津に居合わせたお客さんも多く、介護の日を一般市民に知っていただくという趣旨に沿ったイベントとなったかと思えます。参加した施設の皆様からは、来年以降も継続して実施したいとの意見をいただき、会場提供のららぽーと沼津の関係者からも「良いイベントでした」と好評でした。



ケアットちゃん
も大活躍!♡

2025 介護の日 イベント

ふくし CARE Festival

人と人をつなげる福祉の力

花の苗 先着 300個
プレゼント!

Date 11/10 月曜日
10:20~15:00

Stage ららぽーと沼津 1F ひかりの広場

Act

- 10:30~ 沼津市内の介護施設で働く外国人介護士の方
世界のケアワーカーズ公開トーク
- 11:00~ 介護施設発!! リズム合わせの音楽療法 音楽療法士 塚本愛里
- 11:30~ おいしい時間、笑顔のひとつき ~特養の食事紹介~
- 14:00~ 入居相談員による緊急ディスカッション
「待機者が減っている?! 特別養護老人ホームの現状」

Guest

- 13:30~ ギター・ウクレレ講師 たまき 玉置 茜
- 14:30~ Jazz Singer mayumi

出展ブース

- 入所相談ブース : 市内特別養護老人ホーム入居相談員
- 介護相談ブース : 沼津市基幹型地域包括支援センター
- 福祉用具ブース : 協力団体・企業 ファルマバレーセンター、ベルメディカルケア株式会社 株式会社イノベーションオプティカルサービス
- 栄養・介護食ブース : 株式会社コゲツ、日東ベスト株式会社、森永乳業クリニコ株式会社 沼津市社会福祉協議会 PR コーナー、赤い羽根共同募金箱設置

主催: 沼津市特別養護老人ホーム連絡協議会 後援: 沼津市/沼津市社会福祉協議会

特集2

介護現場で働く私たちに 求められるレジリエンス ～しなやかに戻る力を育むために～



(株)日本教育クリエイト
研修講師
山田 真伸 (理学療法士)

介護の仕事は、日々の感情労働や人間関係、業務の重さから、強いストレスにさらされやすい職種です。その環境が急に変わることはありません。だからこそ、「ストレスとどう向き合うか」を自分の力で選び取ることが、私たち自身を守り、周りの人を大切にするための第一歩になります。

レジリエンスとは、困難や落ち込みから“しなやかに戻る力”のこと。折れない鋼のような心ではなく、一度沈んでも少しずつ回復し、前より柔らかく、強くなっていく力を指します。大切なのは、レジリエンスは特別な人だけが持っているものではなく、誰もが、いつからでも育むことができるという点です。



2025年10月に開催された静岡老施協での研修の様子

レジリエンスの育て方には、さまざまな方法があります。その中で今回は、介護現場で働く私たちに特に有効で、私自身が研修でよくお伝えしている“3つのおすすめ方法（図）”をご紹介します。

一つ目は「思い込みに気づくこと」。

利用者やご家族、職場の人間関係など、相手の言葉や表情を“自分の解釈”で受け止めてしまい、必要以上に落ち込んでしまいがちです。変えられない相手や過去にとらわれず、自分の行動や未来に意識を向けるだけで、心の負担は軽くなっていきます。

二つ目は「感謝に目を向けること」。

忙しさの中に埋もれがちな小さな助けや優しさに気づ

く習慣は、心に“充電”をもたらし、自分自身を良い状態に保つことにつながります。感謝は、介護という対人援助職におけるレジリエンスの“土台”とも言えるほど大きな効果があります。

三つ目は「失敗から学ぶ姿勢」。

介護現場では、どれほど注意を払ってもヒヤリとする経験から完全に逃れることはできません。“失敗＝終わり”ではなく“失敗＝成長のきっかけ”と捉え直すことで、落ち込みの経験そのものがレジリエンスへと変わっていきます。

【レジリエンスを育むための3つのおすすめ方法】(図)

① 思い込みに気づく	<ul style="list-style-type: none"> ・事実と解釈を分ける ・変えられるものを意識する
② 感謝に目を向ける	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな“助けや・優しさ”を拾う ・心のエネルギーを回復させる
③ 失敗から学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・経験を次に活かすマインド ・立ち直り方に再現性が出る

実は私たちは、これまでの人生の中で、知らず知らずのうちにレジリエンスを育ててきています。それに名前をつけ、「レジリエンス」という視点で捉えることで、自分の立ち直り方に“再現性”が生まれます。これは介護職としてだけでなく、一人の人間としての大きな財産にもなります。

レジリエンスは、気がついた“今この瞬間”から育てることができます。介護職である私たち自身が良い状態であることが、利用者やご家族に安心を届け、チームの働きやすさにもつながっていきます。

これからも、共にしなやかな心を育てていきましょう。

* 今回の記事は、2025年10月に開催された静岡県老人福祉施設協議会でのレジリエンス研修の内容をもとに作成しています。

このような執筆の機会をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

共に輝く介護の未来 AJCC「オールジャパンケアコンテスト」 のビックな効果



特別養護老人ホーム 菜の花
施設長 川口 節子

第15回AJCCは令和7年10月4日東京ビッグサイトにて、厚労省の金山峰之介護人材定着専門官、及川ゆりこ日本介護福祉士会会長を来賓にお迎えし、若い闘志で白熱した雰囲気の中で盛大に開催されました。

全国から150名の実技参加と大学、専門学校と高校生の動画での参加8校で、分野は食事、入浴、排泄、看取り、認知症、口腔ケアと外国人の7部門で其々の技を競い合いました。静岡県からは3施設が参加して、見事に👍介護日本一👍が二名新たに誕生しました。

👍一名は認知症部門の特別養護老人ホーム白扇閣の鍋田弥寿人さんです。

評価された内容は鍋田さんの笑顔で優しい人柄と、久保田施設長の熱い応援も加点の対象になったかも？



白扇閣 介護長 鍋田 弥寿人さん

「帰宅願望が強い認知症の方の尊厳を尊重し、寄り添い否定しない話術と寄り添う巧なテクニック」の様でした。見事です。

👍一名は外国人の部門の特別養護老人ホーム菜の花のチージエンさんです。

評価された点は、麻痺のある方のトイレ移動の実技の中で「目線を合わせ、優しい言葉かけと安全、安楽を考慮した点」の様で、利用者役から「今日一日この人なら安心してお世話になれる」と介護の冥利に尽きる評価を戴きました。



菜の花 介護職員 チージエンさん

AJCCの介護業界に対する効果としては廣江会長が発足当初の目的でもある介護の連携、向上、育成、PR、人材確保これらは第10回から国際交流（外国人部門）の導入で正に「秀吉の電撃戦」感服至極です。



左より2人目から白扇閣：久保田施設長、鍋田さん、菜の花：チージエンさん、AJCC発起人の廣江会長、一人おいて菜の花：川口施設長

参加者は競技の中で、著名なアドバイザーの先生からの指導を受け、歓喜したり奮起したりの人生の貴重な体験の場になり施設に帰ればヒーローです。仲間も笑顔満載。AJCCの効果は無限大です。

技術の技は手で支えると書きます。ロボットでは叶わない手の温もり、手先の感触が人の心に温かい電波が伝わります。人間の手は万国共通で、介護に国境はありません。

共に働く
介護の未来を見据え
国内から世界へと外国人の協力、
連携で介護界万歳
です。



外国人介護部門の発表者
前列右が菜の花：チージエンさん



黄色いじゅうたん、咲き誇る「菜の花」

職員紹介

各施設の職員にお聞きしました。

- Q ① 氏名・職種 ② 最近あったうれしいことは ③ 好きなタレント、スポーツ選手
④ もし宝くじで1億円当たったら何に使いますか ⑤ 今後どんな施設（職場）にしていきたいですか
⑥ 施設を選んだきっかけや決め手は何ですか

特養 富岳ダイヤモンドライフすその

(裾野市)



- ① 美濃部 由羽 (管理栄養士)
- ② 大学時代の友人達と旅行に行けたこと
- ③ マッツ・ミケルセン
- ④ 両親に一軒家をプレゼント。残りは貯金
- ⑤ ご利用者様とご家族様が、ここで過ごせて良かったと思える施設。
また、地域に根付いた特色ある施設にしていきたいです。
- ⑥ 厨房が直営なのが決め手でした。調理等の給食業務に携わりつつ、栄養管理業務や行事等でご利用者様と関わる機会が多い事が魅力と感じました。また、栄養士と調理員が対等な関係で仕事ができると思えたことも大きいです。

特養 姫の沢荘

(熱海市)



- ① 岡本 美希 (介護職員)
- ② ボーナスをもらえたこと
- ③ 坂口健太郎
- ④ 好きなだけのんびり過ごす
- ⑤ 笑顔で仕事ができるような職場
- ⑥ 自分の母が今の施設で働いていて、職場の良い所を聞いていたから



特養 晃の園

(静岡市葵区)



- ① 佐藤 文哉 (生活相談員)
- ② 宝くじ(スクラッチ)で一万円当たった事!
- ③ BE:FIRST 村上宗隆
- ④ こじんまりとした家を建てて、残りは増やしたい。
- ⑤ 利用者・家族に限らず、職員にたいしても、困っている方に手を差し伸べられる施設
- ⑥ 業種を絞らず直接人と関わり、困っている方の手助けができる仕事を探していた。相談員の仕事や介護職員の様子を見て、入居者様やご家族に寄り添っている様子に魅力を感じた。

特養 竜爪園

(静岡市葵区)



- ① 小林 亜由香 (地域担当職員)
- ② かわいい手編みのバッグを頂いたこと!
- ③ ジョン・ヨンファ!
- ④ お家を建てる!
- ⑤ 「ただいま」と言えるあたたかい施設
- ⑥ 実習生の時にとても親身になって相談に乗ってくれ安心できたからです!



特養 さやの家

(掛川市)



- ① 鈴木 明日香 (介護職員)
- ② 貰った花の種を植えたら芽が出たこと。
- ③ 大泉洋
- ④ 海外旅行
- ⑤ ご利用者が居心地良く過ごせる施設
- ⑥ 職場の雰囲気が明るく相談もしやすい環境だと感じたため。



特養 東海清風園

(御前崎市)



- ① 松井 泉美 (作業療法士)
- ② 法人内の研究発表会で優秀賞受賞!
- ③ Mrs. GREEN APPLE
- ④ 豪邸を建てる
- ⑤ 「重度化予防ケア」に取り組み、拘縮改善や筋緊張緩和といった成果が出ています。ご利用者がより元気に、そして職員が誇りとやりがいをもって働ける施設を目指しています。
- ⑥ 地元で長く続いてきた歴史ある施設で、この地域を支えてこられた方々のお役に立てるよう努めたいと思っただからです。

どうぞよろしくお願ひします

支部紹介(西部支部)

「いつの間にか福祉教育」がキーワード 学生ボランティア『ひまわりのたね』



特別養護老人ホーム一空園
施設長 大場 清弘

「いつの間にか福祉教育」これを目指した八生会の取り組み、学生ボランティア『ひまわりのたね』についてご紹介します。ひまわりのたねは、LINEで登録した様々な学校の学生が、八生会の各施設が行う地域への取り組みやイベント、施設内の行事へのボランティア活動をする取り組みです。

【きっかけ】

ひまわりのたねの活動は令和6年7月から開始しました。数年前のコロナ禍をきっかけに、これまで盛んだった法人と地域との繋がりを再構築することを検討したことが始まりです。今の学生は、同居者に高齢者は少なく、核家族の中で生活している子がほとんどです。コロナ禍をきっかけに施設や地域の高齢者との関わりまでも薄れてしまった学生たちに、福祉に興味を持ってもらうためのきっかけを作れないかと考えたことが始まりです。

私たちは目標として「いつの間にか福祉教育」という言葉をキーワードにしました。交流の機会を作って意図的に高齢者と関わるのではなく、自然な関わりを大切にしたいと思いました。日常の中に当たり前が高齢者がいること、車イスや歩行器を使用した方がいて、それを支えるスタッフがいること。そんな光景が自然に目に入るような環境の中で、学生自身が自分で何かに気づき、福祉を感じてほしいと思いました。八生会のイメージの花である「ひまわり」と、将来福祉の花を咲かせて欲しいと願い、この団体名を「ひまわりのたね」と名付けました。

【学生の募集について】

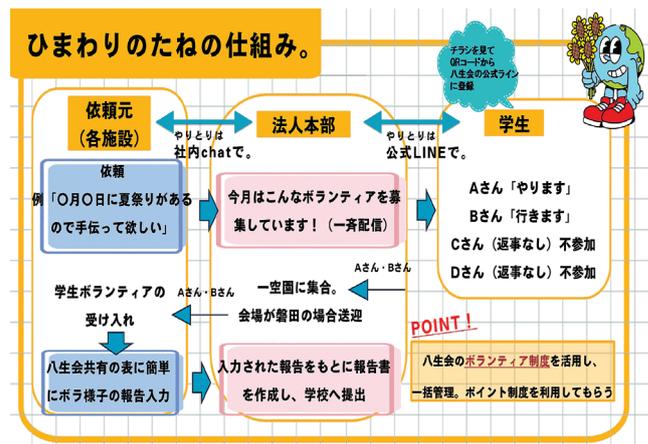
ひまわりのたねは現在70名以上の学生が登録してくれています。高校生、専門学生、大学生など年齢も学校も様々です。法人内職員の子供やその友達も登録してくれています。福祉学科の学生は

もちろん、一般学部の学生、普通科の高校生なども多くいます。活動動機も、「ボランティアに興味があるため」、「学校の内申点のため」、「学校の課題」など様々です。どんな動機であっても、福祉に触れるきっかけになってほしいと思い、取り組んできました。

【仕組み】

八生会には磐田と浜松に全部で6つの施設があります。各施設からボランティアの要請が法人本部に入ります。法人本部はそれを取りまとめてラインに登録している学生に一斉配信。それを見た学生が興味のあるボランティアに、参加の意思があるときにだけ返信をしたり質問したりします。

法人本部は参加者を取りまとめて施設に情報を伝え、必要であれば近くの駅や当該施設までの送迎などを行い、ボランティア参加を支援します。ボランティアを受け入れた施設からの報告をもとに本部が活動報告書を作成し学校へ提出しています。



【ポイント】

この活動が活発に継続しているポイントは4つあります。

1. 公式ライン

学生が個人で登録してくれています。ラインでの情報交換が一番気軽に連絡が取りやすく、質問

や情報などいつでも連絡を取り合っています。

2. 活動報告書と参加スタイル

1回のみでも可能、自由な参加スタイルですが必ず活動報告書は高校へ提出しています。ボランティアに参加したことで課題がこなせる、内申点につながる、そんな理由でも「いつの間にか福祉教育」につながっていると思います。

3. オリジナルTシャツの作成

ひまわりのたねのオリジナルキャラクターを考案し、活動のときはいつでも着ていただく「ひまわりのたねTシャツ」は学生たちにも好評で、モチベーション作りの1つになっています。



4. 施設の受け入れと「思い・目的」の共有

どの施設での活動も共通していることがあります。「楽しく、無理をせず、お年寄りや地域の方々の楽しむ場所作りのお手伝い」です。目的や活動内容を共有し、全施設職員の同じような受け入れ体制があって継続できる活動だと思っています。

【活動内容】

活動の内容は各施設のイベントや行事の運営の手伝いがほとんどです。イベントの模擬店の店員や飾りつけなどお年寄りが楽しむ場所や法人行事の受付などを手伝っていただいています。



過去の活動内容

各施設の施設内夏祭りでの模擬店、お年寄りへのネイルアート、地域に向けた八生祭でのブース出展、地域福祉講演会での受付、子ども食堂のボランティアなど

【反応や声】

「介護の仕事に就きたいので参考になった」「今まで考えたことはなかったけど、将来福祉の仕事も考えてみようと思った」「こんな経験初めてだった」「楽しかった！またやりたい！」

ボランティアに参加した学生からは、このような声を聞くこともできています。何より、参加した学生にリピーターが多いのも嬉しいところです。

【最後に】

私たちの活動は種まきだと思います。これらの経験がきっかけとなり、いつか福祉の芽に繋がることを願います。私たちが目指してきた「いつの間にか福祉教育」が、地域の誰かの支えになり、より思いやりのある地域作りへと繋がっていくと信じて今後も活動を続けていきます。



会員施設の紹介

地域密着型特別養護老人ホーム あおば

【一言キャッチフレーズ】

「All for your smileすべてはあなたの笑顔のために」

【施設概要】

- ・施設名：地域密着型特別養護老人ホームあおば
- ・施設長名：貫名徹
- ・運営法人：社会福祉法人岳陽会
- ・理念：『つながろう、支え合おう。』
- ・開所日：平成26年5月15日
- ・所在地：富士市五味島285-1
- ・提供サービス：地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護・短期入所生活介護
- ・定員数：特養29名／短期入所10名
- ・施設HP：<https://www.gakuyoukai.or.jp>



あおば

※施設HPはこちらから ⇒



特別養護老人ホーム 聖ヨゼフの園

【一言キャッチフレーズ】

「キリスト教精神を基盤として、
愛と謙遜をもって高齢者の方々と接してまいります。」

【施設概要】

- ・施設名：特別養護老人ホーム聖ヨゼフの園
- ・施設長名：大畑光廣
- ・運営法人：社会福祉法人聖母福祉会
- ・理念：『疲れた者、重荷を負う者は、だれでも私のもとに来なさい。休ませてあげよう（マタイによる福音書11章28節）』
- ・開所日：昭和44年6月1日（1969年）
- ・所在地：静岡市駿河区八幡4丁目6番9号
- ・提供サービス：特別養護老人ホーム／ユニット型特別養護老人ホーム／
通所介護事業／訪問介護事業／居宅介護支援事業
- ・定員数：（特養）多床室60名、ユニット型30名／（通所介護）25名
- ・施設HP：<https://www.joseph-seibofukushikai.jp>



※施設HPはこちらから ⇒



特別養護老人ホーム ラスール掛川

【一言キャッチフレーズ】

「私たちが大切にしているのは、変わらぬ『その方らしさ』で
生活できるということ」

【施設概要】

- ・施設名：特別養護老人ホーム ラスール掛川
- ・施設長名：栗田朋浩
- ・運営法人：社会福祉法人百葉の会
- ・理念：『自らが受けたいと思う医療と福祉の創造』
- ・開所日：平成27年4月1日
- ・所在地：掛川市杉谷南1丁目1-20
- ・提供サービス：特別養護老人ホーム／短期入所生活介護／通所介護
- ・定員数：長期入所100名 短期入所20名 通所35名
- ・施設HP：<https://www.lasoeur-kakegawa.jp>



※施設HPはこちらから ⇒



委員会紹介

県外施設視察研修に参加して



研修委員会委員
特別養護老人ホーム 聖ルカホーム
施設長 大石 幸

福祉を取り巻く環境は、ますます複雑化し課題が解決されないまま次の課題に対応しなくてはならない状況ではないでしょうか。今回の県外視察は、私にとりまして自施設だけでは行き詰ってしまう事や気づけていなかった事に対し、実際に見聞きでき考え方が広められ、また、同じ課題に悩む方々と話すことで前向きになれるそんな機会となりました。

今回は、千葉県のある二つの法人様を見学させていただきました。両法人様に共通している事として、地域に根差し多種のサービスを展開されている事、医療との連携が円滑にできていると感じました。



歯科クリニックの玄関前にて

社会福祉法人旭福社会様では、特養やケアハウス、デイサービスの敷地内に歯科クリニックが併設され入居者はもちろん、在宅の高齢者には送迎サービスもされています。小さな地域に特養が複数あるため、入居者の確保が大きな課題であり選ばれる施設になるための委員会を立ち上げているとのこと。

入居者様の楽しみの一つである“食”への取り組みとして、給食を自前にし美味しさとコスト削減に取り組み、食器も陶器を使用し目でも楽しんでほしいという思いが感じられました。

もう一つ“職員の幸福”を目指し様々な取り組みがされています。毎月職員向けのメッセージを発信し法人側の思いを伝えること。職員との交流の場を持ち意見交換していること。不安や悩みを相談できる医師がいること。など、福利厚生を充実させることに尽力されていました。また、働きやすい職場づくりのためイ



見守り機器は「眠りスキャン」を導入。食器は陶器製で親しみやすい

ンカムやペットセンサーなどのICT化にも積極的に取り組まれていました。



左手が老健、右奥の建物が特養「松丘園」。老健と特養は2階が連絡通路で繋がっている。

社会福祉法人九十九里ホーム様は、始まりは結核療養所であり、キリスト教精神に則った“愛と希望に満ちた地域づくり”を目指されていました。病院を中心に老健や特養、サービス付き高齢者住宅、認定こども園などを運営されています。

特養では、病院の医師との連携により看取り期のケアが充実されていました。最期の時を家族と過ごせるように用意された部屋があり、ご本人を中心に家族と施設が協力して安心できる環境づくりがされていました。

もう一つ印象的だったことは『人材確保』に関する取り組みです。人材確保が難しい中、通常の就職説明会の他、地域に出向いて説明会を開催、駅前でのチラシ配りなどもしているとのことでした。ご利用者や職員の心のケアのため、チャプレンによる施設訪問もあります。創立期から約90年の歴史ある法人様としての悩みには、創設期の理念の継承を挙げられていました。



医務室の近くには「看取り部屋」があり、家族は寝泊りして看取ることができる。

両法人様も、地域に根差し無くてはならない存在であること、職員の働く環境に配慮されていることを感じます。今回の県外施設視察では、法人の沿革や規模、理念などは様々ですがご利用者にも職員にもよい人生を歩んでもらいたいと願う気持ちは一緒であると思われ、励みとなりました。一緒に視察した施設長様たちとの交流もできました事、大変実りある研修でした。

知事新年挨拶県庁訪問

正副会長の活動

令和8年1月8日、相談役、正副会長は新年挨拶のため鈴木康友知事を訪問しました。

写真左から、前田副会長（中部支部長）、大塚副会長（東部支部長）、石川相談役、鈴木知事、種岡会長、増田副会長（西部支部長）、深谷常務理事（事務局長）



令和7年度老施協活動報告（令和7年11月1日～令和8年3月31日）

☆は予定

【老施協】

- ★11月11日 県内3地区で「介護の日」街頭キャンペーンを実施
- ★11月14日 第6回正副会長会議
- ★12月9日 第3回理事会
令和8年3月任期満了に伴う役員等の改選等、第14回高齢者福祉研究大会の開催結果報告等
- ★1月8日 知事新年あいさつ、第7回正副会長会議
- ★2月17日 第8回正副会長会議、事業推進検討会議
令和8年度支部・委員会活動計画案の調整等
- ☆3月5日 第4回理事会
- ☆3月23日 第5回理事会
第2回総会
令和8年度事業計画案・一般会計収支予算案



【企画経営委員会】

- ★11月13日 第4回委員会
DX化調査・研究、外国人介護人材調査・研究
- ★1月19日 第5回委員会
外国人介護人材調査・研究、令和7年度活動報告と令和8年度事業計画等

【広報委員会】

- ★11月18日 第3回委員会
[しず老施協]第75号の企画、老施協ホームページ
- ★2月 老施協PRポスター作製・配布

【研修委員会】

- ★11月6日～7日 県外施設視察研修
- ★11月14日 介護力向上研修 ～研究発表Again!～
- ★12月15日 キャリアデザイン研修

- ★1月9日 第5回委員会
施設長研修、令和7年度活動報告と令和8年度事業計画等
- ★2月15日 高齢者施設従事者研修会
- ☆3月23日 施設長研修
- 【次世代委員会】
- ★11月11日 「介護の日」中心 PRポスター作製等啓発活動を実施
- 【高齢者福祉研究大会実行委員会】
- ★11月19日 第6回実行委員会
第14回大会の開催報告、第15回大会の概要等
- ★2月16日 第7回実行委員会
講師候補・募集要綱等の検討
- 【養護委員会】
- ★12月22日 第2回委員会
実態調査結果、令和7年度活動報告と令和8年度事業計画等
- ★1月 養護老人ホーム実態調査報告書配布
- 【特養委員会】
- ★11月 協力医療機関連携加算取得状況調査実施
- ★11月 特別養護老人ホーム待機・入所状況調査報告書発行
- ★1月27日 第4回委員会
令和7年度活動報告と令和8年度事業計画等
- ★2月 協力医療機関連携加算取得状況調査報告書配信
- 【軽費委員会】
- ★1月7日 第3回委員会
令和7年度活動報告と令和8年度事業計画等
- ★2月19日 第1回総会・施設長研修会
- 【地域ケア委員会】
- ★1月15日 第2回委員会
令和7年度活動報告と令和8年度事業計画等

編集後記

会員の皆さま、いつもご愛読ありがとうございます。また、原稿依頼に快く応じて下さった皆さま、本当に協力ありがとうございます。前任者より引継ぎ本年度より編集委員に参加致しております。編集会議に参加する度に、委員の皆さんの、アンテナの高さ、敏感さ、強い発信力にいつも感心しきりです。そんな編集委員の熱意と創意が紙面を通じて伝わっていただければ嬉しいです。

たくさんの皆さんが、日々真摯に目の前の方に向き

合っていて、それぞれの仲間と頑張っていて、たまには、「その頑張りいいね」とか、「その取り組みとても魅力的だね」とか、お互いで讃え合うような、頑張る君への滋養といった役割もこの冊子にはあるように思います。

「冬来りなば春遠からじ」、引き続き、寒い日が続きますが、風邪などひかれぬよう、暖かく、心地よくお過ごしください。

（長谷川 薫）

